

共同研究の経過と概要

樋口雄彦

1 目的

戦前日本の陸軍のうち歩兵連隊は一〇二府県を徵集管区とした地域的編制をとっており、結果、地域社会と軍隊とは強い結び付きを有した。佐倉に置かれた歩兵第二連隊、第五十七連隊（ともに佐倉連隊と通称）もそのような「郷土部隊」のひとつであり、「軍隊と地域」を考慮する場合の事例たりうる。本研究では、日清・日露戦争当時の第二連隊、その後の編制替えで誕生した第五十七連隊を中心に据え、近代日本の地域と軍隊との関わりを事例的に研究する。その際、「満州」派遣、ノモンハン事件、レイテ戦といった戦歴をたどった昭和期の佐倉連隊を見つめることにより、対外的な視点から日本の戦争について考えることになる。また、時間切れが迫っている聞き取り調査にも意を注ぐとともに、文字資料以外のモノ資料や史跡についても広く調査対象とし、展示への可能性を模索する。

2 研究期間

二〇〇二年～二〇〇四年度

3 研究組織

神田文人 横浜市立大学名誉教授（二〇〇五年逝去）

塚本学 国立歴史民俗博物館名誉教授

○小原清喜美 学識経験（二〇〇五年逝去）

宮地正人 国立歴史民俗博物館館長

安田常雄 国立歴史民俗博物館教授

●樋口雄彦 国立歴史民俗博物館助教授

○千田嘉博 国立歴史民俗博物館助教授（二〇〇五年度より奈良大学助教授）

○一ノ瀬俊也 国立歴史民俗博物館助手

●は研究代表者、○は館内事務担当者、○は二〇〇三年度より参加

4 研究の経過

二〇〇二年度

第一回研究会 二〇〇二年八月二日 国立歴史民俗博物館

塚本学「佐倉連隊の概要解説」

第二回研究会 二〇〇二年九月二六日 佐倉連隊跡地（佐倉城址）

佐倉連隊跡地の実地見学

第三回研究会 二〇〇二年十一月五日 四街道市・陸上自衛隊高射学

校広報史料館（千葉市）

歴史博友の会「軍隊と地域」学習会による見学バスツアーに同行

第四回研究会 二〇〇二年二月一八日 佐倉市内

郷土史家北詰栄男氏の案内で佐倉連隊出入り商家などを実地調査

第五回研究会 二〇〇三年二月一四日 国立歴史民俗博物館

館蔵の戦争関係資料、佐倉城址発掘の連隊関連遺物の調査

第六回研究会 二〇〇三年二月二七日 茨城郷土部隊史料館（ひたち

なか市）

茨城郷土部隊史料館（陸上自衛隊施設学校防衛館内）の展示品のう

ち、歩兵第二連隊関係資料の調査

第七回研究会 二〇〇三年三月一二日 国立歴史民俗博物館

旧佐倉連隊兵舎がロケで使われた映画「真空地帯」（一九五二年、

山本薩夫監督）の鑑賞と検討

※その他、資料複写のための調査・借用・返却のため、佐倉市立図書

館、成田山仏教図書館、野田市立興風図書館、陸上自衛隊高射学校

広報史料館に出張した。

二〇〇三年度

第一回研究会 二〇〇三年五月二三日 国立歴史民俗博物館

佐倉連隊元兵士松戸義勇・根本幸次氏をゲストスピーカーに招き聞

き取り調査

第二回研究会 二〇〇三年六月一四日 国立歴史民俗博物館

兵舎建築史の専門家である中森勉氏（金沢工業大学）をゲストスピー

カーに招く

第三回研究会 二〇〇三年一〇月二七日 国立歴史民俗博物館

千田嘉博「歩兵第四連隊の兵舎」

第四回研究会 二〇〇三年十二月一日 国立歴史民俗博物館

ビデオ「ハルハ河の英雄的な頁」（一九九一年モンゴル制作）他の

鑑賞と検討

第五回研究会 二〇〇四年一月二六日 国立歴史民俗博物館

元佐倉連隊兵士石井茂司氏を招き聞き取り調査

第六回研究会 二〇〇四年三月二二日 国立歴史民俗博物館

元歩兵第五十七連隊兵士斎藤悌市氏、陸軍演習場関係資料収集家

遠藤三郎氏を招き聞き取り調査

※他に、資料調査・撮影、聞き取り調査のため、印旛村歴史民俗資料

館、千葉県文書館、千葉県立中央図書館、靖国神社・靖国偕行文庫、

成田山仏教図書館、佐倉市立図書館、東京大学総合図書館、長嶺秀

雄氏宅（茅ヶ崎市）に出張した。

二〇〇四年度

第一回研究会 二〇〇四年五月二六日 国立歴史民俗博物館

元東部六四部隊兵士大岡明男氏を招き聞き取り調査

第二回研究会 二〇〇四年六月三〇日 国立歴史民俗博物館

これまで収集した資料の持ち寄りと整理・報告

第三回研究会 二〇〇四年九月二二日 国立歴史民俗博物館

元七三一部隊隊員芦田才爾氏を招き聞き取り調査

第四回研究会 二〇〇四年一〇月一四日 国立歴史民俗博物館

元歩兵第五七・二一二連隊士官藤毅雄氏を招き聞き取り・跡地調査

第五回研究会 二〇〇四年十一月一八日 国立歴史民俗博物館

平山善之氏を招き佐倉連隊跡地開拓について話をうかがう

第六回研究会 二〇〇四年十二月一五日 国立歴史民俗博物館

塚本学「城下町と連隊町」

第七回研究会 二〇〇五年一月一九日 国立歴史民俗博物館

ゲストスピーカーに相原公郎、遠藤三郎、小幡秀雄、黒川和夫、篠丸頼之、塚本良子、中村正、平山善之、星昌幸、牧野光男、山倉洋和、渡辺庄一郎、蕨毅雄の諸氏を招き、特別企画「佐倉連隊とその時代」開催に向けた説明と依頼を行う

第八回研究会 二〇〇五年三月一六日 国立歴史民俗博物館

ゲストスピーカーに相原公郎、遠藤三郎、小幡秀雄、黒川和夫、篠丸頼之、塚本良子、中村正、平山善之、星昌幸、牧野光男、山倉洋和、渡辺庄一郎、蕨毅雄の諸氏を招き、特別企画「佐倉連隊とその時代」開催に向けた説明と依頼を行う

※他に、資料調査・撮影のため、財務省関東財務局千葉財務事務所、靖国神社・靖国偕行文庫、靖国神社遊就館、偕行社、昭和館、大阪市・旧真田山陸軍墓地に出張した。

5 研究の概要

第一年次には、研究史や文献・資料の整理・収集、連隊跡地・遺跡の実地見分、館蔵資料の調査・確認といった基礎的な作業から開始した。特に、陸上自衛隊高射学校広報史料館に保管・展示されている佐倉連隊関係の文書・書籍・物品・写真資料、城下町佐倉歴史生活資料館に展示されている連隊関係モノ資料、北詰栄男氏所蔵資料などについて所在を確認できたことは、今後の研究・展示を考える上で大きな成果であった。また、『さくら』（帝国在郷軍人会佐倉・千葉支部報）の現存するバックナンバーをマイクログ撮影するなど、関連文献を複写・収集したほか、『千葉連隊区将校団報』、佐倉連隊除隊記念盃、フィリピン・レイテ島地図といった、一部の資料については実物を購入・寄贈により入手した。

第二年次には、昨年度から引き続き、近隣の博物館・文書館において文献・資料の整理・収集を行ったほか、元兵士からの聞き取りを行った。建築史の専門家を招き兵営建築に関する説明を受けたりした。また、研究の分担を決め、各自が担当する分野の資料調査を開始した。特に、陸上自衛隊高射学校広報史料館が所蔵・保管する文書・書籍・写真、『五七』（歩兵第五十七連隊発行雑誌、昭和七〜一一年）の現存するバックナンバー、『明治二十七八年日清戦争歩兵第二連隊歴史』（明治二十九年刊）を借用・複写するなど、関連文献を複写・収集したほか、長島進中尉関係資料など、一部の資料については実物を購入により入手した。

第三年次は、さらなる文献・資料・情報の収集につとめ、歩兵第五十七連隊の中隊単位で作製されたアルバムや写真を中心とした旧村松写真館旧蔵資料（佐倉市教育委員会所蔵）、佐倉連隊での体験記・池田極外著『苦？楽？新兵の生活』（大正四年刊）などを複写したほか、ビゴ「日清戦争写真帳」、『歩兵第五十七連隊第三中隊記念写真帳』（大正一三年）、『未召集兵教育教官参考書』（昭和一八年刊）、『湯岡子病院復員名簿』（昭和二〇年頃）などの原資料を入手した。また、元兵士や連隊跡地の経過・事情に詳しい地元の方々をゲストスピーカーに招き、聞き取り調査を実施した。加えて、次年度に予定している研究報告の刊行に向け、研究発表を行うとともに、平成一八年度開催の特別企画「佐倉連隊とその時代（仮称）」展の展示構成案を検討するなど、研究成果の公開に関しても準備を開始した。

（国立歴史民俗博物館研究部）